Tochigi Youth Supporters Network

ANNUAL REPORT 2016

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
2016年度年次報告書

Contents

目　次

2　私たちの目指すもの / スタッフ
3　総括
4　プロジェクト

5　活動報告
5　　実践型インターンシップ GENBA CHALLENGE
7　　若者による社会をよくするスタートアッププログラム　iDEA→NEXT
9　　ソーシャルグッドカフェ / 社会をよくするシゴトのつくりかた / ソーシャルビジネス留学
9　　大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目「起業の実際と理論」
１０　　とちぎ地域づくり担い手育成事業・スキルアップＰＬＵＳ
１１　　とちぎ週末インターンシップ事業 はじまりのローカル コンパス
１１　　ローカルベンチャー育成
１２　　とちぎ手仕事プロジェクトFukuFuku
１３　　愉快ライター
１３　　宇都宮市民シティプロモーション支援
１４　　会員限定交流会 YOUTH TIME
１４　　とちぎ学生未来創造会議2016
１４　　その他・講演・ワークショップファシリテーター等
１５　　古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ　　ホン de チャレンジ
１６　　ユース年末寄付キャンペーン
１６　　gooddo

１７　数字でみるユースの活動
１９　メディア掲載
２０　会員の声
２１　財務報告

Our Goal 私たちの目指すもの

Vision 目指すべき社会

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

Mission 社会的使命

若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速させる

Concept 視点

【現場】社会を創る実践者や課題と、若者とのリアルな接点
【役割】必要とされるチャレンジの場
【現場】若者のチャレンジを支え合うソーシャルキャピタル

チャレンジの意義

未来・可能性　希望の創造　現状を突破するヒント　社会の活性化　新陳代謝　個の力の発揮
社会認識　当事者意識　絆　仲間　人の大切さ　意欲　自信　責任感　自己成長

Staff スタッフ

代表理事 岩井 俊宗

宇都宮市出身。宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別SOSに従事。08年若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの促進を目的に当会を設立。その他、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県社会貢献活動推進懇談会委員等。

【担当】実践型インターンシップ事業全般、大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目「起業の実際と理論」　他

総務・経理 森 雄史

宇都宮市出身。駒澤大学を卒業後、あてもなく無職の時代を1年半ほど経て、ユースが立ち上げた学校「とちぎユースワークカレッジ」に1年半ほど在籍。そこでのインターンでユースへ赴いたことが最初のユースとの出会いであり、その後10ヶ月ほどインターンを続ける。インターン終了後は簿記3級の資格取得のために勉強し合格。その後ユースの非常勤スタッフとして招き入れられ、事務や庶務を担当。現在に至る。

【担当】iDEA→NEXT、YOUTH TIME、総務・会計全般

プログラムコーディネーター 吉井 渚

富山県出身。北里大学で４年間畜産学を学んだ後、宇都宮大学大学院に転学し農業経済学を修める。在学中に農村での若者育成・地域づくりに興味を持ち、各地の農村に足を運びながら現場を通して地域づくりを学ぶ。今後は、被災地という課題先進地域で学んだことを専門に活かしたいと考え、ユースでの業務に取り組んでいる。学生時代は、よさこいの踊り子として活躍。

【担当】復興支援プロジェクト、宇都宮市創業支援事業、ＵＩＪターン事業

プログラムコーディネーター 菊池 公江

静岡県出身。結婚を機に栃木へ。旅行会社に勤務し各地を駆け巡った後、ユース主催のアイデアコンテスト「iDEA→NEXT」に応募。ファイナリストに選出される。２児の母として日々子育てに奮闘しつつ、ユースでもお母さん的存在として活躍。得意技は掃除と３秒で眠ること。

【担当】YOUTH TIME、iDEA→NEXT OB会、総務全般

理事・事務局長 古河 大輔

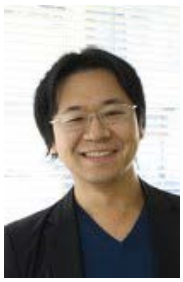
小山市出身。大学卒業後、名古屋でインテリアコーディネーターとして４年間勤務。その後青年海外協力隊(村落開発普及員)として南米ボリビアに赴任し、収入向上プロジェクトや植林などの環境保全活動に従事。誰もが地域のプロデューサーとなる多様性溢れる地域社会を目指し、現職。その他、ＮＰＯカゼトツチ代表 等

【担当】iDEA→NEXT、宇都宮市創業支援事業、復興支援プロジェクト、ＵＩＪターン事業　他

プログラムコーディネーター 渡邊 貴也

宇都宮市出身。ユースでのインターンを経験し、その後、那須烏山市にて地域づくり団体の支援や新商品開発の事業に関わる。それと並行し、子どもの政治意識向上を目指すプロジェクトの代表として活躍。現在は、ユースで非常勤スタッフを務めつつ、都市農村交流、空き家利活用、政治意識向上などの複数プロジェクトの推進を行っている。

【担当】実践型インターンシップ事業全般、iDEA→NEXT OB会、ローカルベンチャー



プログラムコーディネーター 石川 慎太郎

鹿沼市出身。大学でコンピュータ工学を専攻。IT 企業で企画開発および営業企画・マーケティングを担当し、新商品開発や大手企業向けIT・セキュリティ提案を多数行う。現在は地元栃木県にて、地域の企業やNPO のIT化や情報発信の支援を行っている。NPO 法人サバイバルネット・ライフ理事。20カ国を旅したジェットコースターマニア。

【担当】実践型インターンシップ事業全般、メディア関連

ボランティア

五十嵐 圭　内山 裕介　大塚 彩花　小川 咲里菜　工藤 文也
栗本 孝憲　小菅 慶子　小松 優希　高田 光紀　田口 恵莉　寺内 将人
内藤 さつき　野口 武　橋本 紗由理　林 和輝　村上 和央　山倉 明穂
山中 隆弘　山本 太郎　山本 佳子　吉田 直樹　渡辺 明里

Summary

総　括

今年度は事業の拡がりに合わせ、これまでの5名体制（常勤：3名＋非常勤：2名）に、２０代の若手2名が常勤スタッフとして加わった。事業領域の拡大と体制の強化に伴い、プログラムの質は向上し、関わる若者の数も昨年対比202%と数字にも如実に表れている。

収入面では、概ね計画通りの事業を受注したが、当初から計画していた自主事業で大幅な予算未達となり、年度途中でいくつかの新事業を受注したものの、赤字分全てを補填することができず、予算対比で見ると約150万円減となった。寄付は、昨年度から１２%減となり、年々下降している。
若者を地域活性化の活力とする近年の社会的追い風により、県内外で認知が拡がっているのはプラス材料となっている。

今後は、自主事業の見直しおよびテコ入れに加えて、ファンドレイジングについてしっかりと戦略を立て、より積極的なアプローチが求められる。

支出面では、予算対比約130万円の支出増加となった。人員体制の強化により人件費が重んだことに加え、支出をマネジメントできていない事業があることなどが主な原因となっている。各プロジェクトチームのリーダーを中心に、内部で行う取り組みと外部ソースに任せることや、時間と費用をマネジメントすること、予算の計上と執行を責任もって行うことなど、毎月の経営会議で収支および進捗の確認を行っていく。

これまでの懸念だった若い人材の合流ができ、チームの土台作りの一年となった。今年度の反省を踏まえ、事業をマネジメントする力をより高め、組織としての安定感を生み出していきたい。

次年度は、これまで計画しながら成果を出せていなかった分野（特にファンドレイズ部門）で、より注力し、県内外の共感者を増やし、より若者の力を可視化し、地域の課題解決／活性化を持続可能になる取り組み・環境を整備していきたい。

代表理事
岩井俊宗

Projects プロジェクト

● プロジェクトサポート ● インキュベーション ● 動機づけ

区分	事業名	本事業の取り組む社会課題	成果	分類	期間	参加人数
実践型インターンシップ事業	GENBA CHALLENGE	・地域の中小企業・NPOの次の一手を創造していく人材の不足 ・企業と若者の就業に関するミスマッチ ・若者の価値を生み出していく社会経験の不足	・インターン生が加わることで、企業・NPO等の組織内での新たな事業・サービス、社内の仕組み化が創出	●	通年	2人
	宇都宮大学課題発見解決インターンシップ			●	8月～11月	24名
	西地区空き家調査			●	11月～2月	56名
	1day インターンシップ			●	9月・2月	30名
起業・創業ネットワーク事業	若者による社会をよくするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」	・次世代の地域課題の解決に継続的に取り組む若手人材の不足 ・地域／社会活動を志す若者の挑戦の機会の少なさ ・先輩実践者との接点の不足 ・地域課題・社会課題の認知不足	・昨年度よりソーシャルビジネスという概念の敷居を下げた「ソーシャルグッドカフェ」と「社会をよくするシゴトのつくりかた」ではのべ86人の参加が得られ、興味関心の掘り起こしに成功した ・「社会をよくするシゴトのつくりかた」から2組と宇都宮大学授業「起業の実際と理論」から3組のiDEA→NEXTへのエントリーがあり、2つの事業から、より自身のプロジェクト実現のためのiDEA→NEXTへの導線を確立できた	● ●	9月～3月（OB会6月、7月、9月）	134名
	宇都宮市起業支援事業 「ソーシャルグッドカフェ」 「社会をよくするシゴトのつくりかた」 「ソーシャルビジネス留学」			● ●	9月～12月	92名
	宇都宮起業家養成講座 「起業の実際と理論」の授業運営			● ●	7月～1月	557名
地域担い手定着事業	とちぎ地域担い手育成事業	・人口減少に加えて、若者の社会貢献意欲や活動時間の減少 ・地域づくりの意欲があってもどのように進めていけばよいかわからない人材の育成と実践機会の不足 ・地方都市の活力低下 ・農山村／地方都市を担う若手人材の不足	・新たに地域づくりの現場に参画しながら、課題に対して解決につなげていく活動を生み出していく人材の養成 ・都市部の若者へ地域づくり参画の機会を提供 ・都市部の若者がそれぞれのスキルを活かした関わり（栃木由来の商品制作やイベントへの出店など）により、自己実現の機会と地域の活性化に貢献 ・県内各地にて、外部人材の受入れノウハウが蓄積し、環境が整備された ・地方の貴重な地域づくり人材のエンパワーメント栃木県の地域づくり団体を通して、都市部の関係人口が増加し、地域の再評価や活動の加速に寄与 ・地域づくり団体の取り組みを可視化、メディアとの連携を通して広く全国へ取り組みを発信	●	8月～2月	248名
	首都圏若手人材ＵＩＪターン事業 「はじまりのローカル コンパス」			●	9月～3月	246名
	ローカルベンチャー育成事業			● ●	6月～3月	108名
とちぎ手仕事プロジェクト FukuFuku	とちぎ手仕事プロジェクト 「FukuFuku」	・長引く被災地復興 ・震災の風化 ・支援活動からの自立	・FukuFuku本体事業とワークキャンプは活動の見せ方を変えた（震災支援を前面に出さない）イベント企画を行なうことで、新しい参加者層と繋がり、福島に興味を持ってもらうことができた ・震災支援への意識が高くない人も幅広く巻き込めるように、より若者層のニーズを反映した魅力的な商品を生み出すことができた ・現地支援団体（みんぷく）との連携により、現状の把握ができたことで、新しい課題のある場所（復興公営住宅）で支援を展開することができた	● ●	通年	239名
宇都宮市魅力発信事業	宇都宮市民シティプロモーション支援事業	・人口減少と都市間競争を背景に、「選ばれる都市」となるべく、市民の誇りと魅力を伝えていく市民チームを育成する機能の不足	・新たな施策、仕組みとして、市民シティプロモーション支援を確立し、市民チームを育成する基盤を創出	● ●	7月～3月	238名
	愉快ライター事業			● ●	9月～3月	66名
各種事業	会員限定交流会YOUTH TIME			● ●	通年	50名
	とちぎ学生未来創造会議			●	6月～10月	119名
	ワークショップファシリテーター等				通年	1,563名
ファンドレイズ	ホン de チャレンジ				通年	
	Gooddo				通年	
	ユース年末寄付キャンペーン				12月～1月	

実践型インターンシップ GENBA CHALLENGE

宇都宮大学　課題発見・解決型インターンシップ　/　西地区空き家調査

「成長と挑戦」×「価値創造」

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える“課題の解決”や“次の一手を創る”現場をフィールドにしたインターンシップ。
成長意欲のある若者には、“より本質的な力”を、受入組織には、“社内の変化と新たな価値”を生み出している。

実　施　状　況

生産者と消費者の想いをつなげ！“くまの木”の魅力発信プロジェクト

受入組織　/ NPO法人くまの木 里の暮らし
期間 / 10月～12月
内容 / 廃校を活用した農村体験宿泊施設「くまの木」の宿泊者に対し、塩谷町の農産物、地の恵みを伝えるべく、取材、情報紙を発行。
参加者 / 橋本紗由里(国際医療福祉大学)
成果 / 施設宿泊者向けの冊子(2号)の発刊。冊子コンセプト、紙面等、0から1を創り出した。

フードバンクサポーターを拡大！募集ポスター掲示店舗開拓プロジェクト

受入組織　/ 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク
期間 / 11月～2月
内容 / 食べることができるにも関わらず廃棄させてしまう食料を生活困窮者へ提供するフードバンクに、食品提供、食品管理・配送ボランティア、企業協力を募るポスターの制作と掲示を行った。
参加者 / 太田 祐司(宇都宮大学農学部)
成　果 / ポスターの制作他、目標20か所に対し、約30か所に掲示を実現した。ボランティア等支援者の開拓に加えて、組織の受入れ態勢を整える優先順位を上げることもできた。

<宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ>

若者が書き込みたくなる「栃ナビ！」口コミ拡大戦略を策定せよ

受入組織　/ ヤマゼンコミュニケーション株式会社
期間 / 8月～9月
内容 /栃ナビ！の現状分析と課題に対する改善案提案
参加者 / 野坂 美央　(宇都宮大学国際学部)
　　那知上 嘉海　(〃農学部)
　　狩野 菜々　(〃農学部)
　　野村 碧　(〃地域デザイン科学部)
成果 / 若者のユーザー視点を取り入れた「会員登録」の導入とメリットの提案を取締役等に行った。

<宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ>

絶滅が危惧される動物のよりよい飼育環境として新獣舎を描く

受入組織 / 宇都宮動物園
期間 / 8月～10月
内容 / シロテナガザルの新獣舎の提案
参加者 / 小西 萌香（宇都宮大学農学部)
　　大塚 みく　(〃農学部)
　　石崎 由梨　(〃国際学部)
　　福島 わかば(〃農学部)
　　佐藤 杏菜　(〃地域デザイン科学部)
成果 /コンセプトだけでなく、図面、設置箇所等を具体的な提案を園長に行った。

<宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ>

栃銀の魅力を発信する広報活動を考えよ～より良い人材を確保するための採用方法～

受入組織 / 株式会社栃木銀行
期間 / 8月～10月
内容 /採用活動の改善提案
参加者 / 岡本 美穂　(宇都宮大学国際学部)
　　久野 友寛　(〃国際学部)
　　青木 菜緒　(〃農学部)
成果 / 就職活動を行う大学生の期待の声を反映した交流機会やインターンのプログラムの提案を人事部役員に行った。

<宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ>

宇都宮市の発展に向け、若き産業人材(起業家担い手)育成のための政策を考えよ

受入組織 / 宇都宮市
期間 / A 8月～9月　B 8月～10月
内容 / A　グローバル人材の育成政策を策定
　　B　起業しやすい環境づくりの政策策定
参加者 / 蛭田 情世 (宇都宮大学教育学部)
チームA 小松崎 美穂 (〃農学部)
　　志村 雄基　(〃工学部)
　　嶋脇 彩佳　(〃国際学部)
チームB 芹澤 由佳　(〃国際学部)
　　船田 晃代　(〃教育学部)
　　石原 明典　(〃農学部)
　　佛川 夢真　(〃地域デザイン科学部)
成果 /根拠を交え産業政策課に提案を行った。

ゲンチャレとは

受入団体の変化させたいニーズとアイデアに基づき、当会がプロジェクト案を設計。受入団体と協議した後、そのプロジェクトにインターン生を募集し、マッチング。インターン生の受入後、受入団体に担当者（スーパーバイザー）を配置していただき、インターン生は担当者の右腕となり動いていく。当会もプロジェクトやインターン生のサポートを行うために伴走する。

	一般的なインターンシップ	実践型インターンシップ『GENBA CHALLENGE』
分類	見学型・研修型	**長期実践型**
期間	2週間程度 （90時間）	**1か月から数ヶ月(150～300時間以上)**
参加期間	休暇中のみ	**休暇中：週3～5回 学期中：週２回など**
社内での位置づけ	研修生	**期間限定の社員**
学生への期待	貪欲な学習意欲 学生ならではの意見	**プロジェクトの成功・特定の役割遂行 課題発見・解決**
受入側の目的	採用活動の一環 社会貢献	**事業・組織の発展**
窓口	人事部	**経営者・事業責任者**
人材育成目標	職業意識の醸成 仕事への理解	**起業家的な思考・行動特性の獲得 課題発見・解決能力の獲得**
その他	Campus web等のwebで募集 企業情報を見てエントリー	**プログラムサイト「SOZO」で募集 当会が受入プログラムを設計**

参加者の声

「期間限定社員」で新たなスキルをプラスしよう！

橋本 紗由理 / NPO法人くまの木 里の暮らし

尚仁沢湧水で有名な塩谷町にあるNPO法人「くまの木 里の暮らし」は廃校になった小学校を活用し、宿泊型体験施設を運営している。町内には美味しいお酒や農産物があり、宿泊者にその魅力を伝え、町に滞留する仕掛け生み出すプロジェクトは動き出した。

町内の生産者へのインタビューし、“くまの木”スタッフも知らなかった生産者の想いが「可視化」されたことに達成感を感じている。

パンフレット編集作業は想像以上に難航したが、ここで新たなスキルを身につけられたことは大変貴重な経験となった。「長期実践型インターンシップ」とあるけれど、体感的にはあっという間の3ヶ月だった。

バイトでは経験できない、組織の一員としての貢献

太田祐司 / 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク

食べることができるのに廃棄されてしまう食料を生活困窮者を提供し、支援する仕組みであるフードバンク事業へのインターン。受入先は、企業の巻き込みに課題を抱えていた。

私のミッションは食品寄付を呼び掛けるポスターを制作し、20店舗以上に貼りに行くこと。ポスター作成も企業への提案も経験が全くなく本当に大変だった。

結果的に、目標数を超えた協力店舗を広げることができ、大きな達成感と貢献できたという実感が湧いた。時間的にも相当きつかったが、ここで得られた経験は社会人になっても絶対活きていくと確認を持てる。大学生である限りはボランティアとして関わっていく。

成果

・NPOを受入先として実践型インターンシップの定着の兆しが見えた。NPOの世代交代の課題と意欲ある若者の機会のマッチングは双方にとって効果が高い。
・大学との連携したチーム実践型インターンシップについても、先輩が後輩を誘う循環が生まれている。

プロジェクト数 / 6
参加者 / 22名
のべ活動時間 / 3717時間
参加学校 / 宇都宮大学 国際医療福祉大学
協力者 / 28名

課題

・企業の長期インターンシップが、募集案件となるもののマッチングしないケース(学生の交通手段の確保ができず)があった。また若者自身が長期間のスケジュール確保が難しいことや、多様なインターンシッププログラムが大学に案内され、違いと選択したくなるポイントをより高めていく必要がある。

宇都宮市西地区ヒアリング調査

宇都宮市の空き家対策として宇都宮市生活安心課を事務局として発足された「空き家等対策実践連携会議」において、宇都宮大学が実施する空き家供給の意向についてのヒアリング調査研究のサポートとして、調査を行う大学生のサポートを実施。対象地区在住の対象120世帯中49軒から回答を得ることができた。

日時
11月から3月（説明会および現場事前視察を計7回、実地調査を5回実施）

成果

・地域に潜在するニーズや課題意識を学生主体で明らかにすることができた。

延べ参加者 / 56名
延べ協力者 / 4名
活動時間 / 112時間

とちぎの1day職場体験

栃木県内で活躍する中小企業と次世代を担う若手人材のマッチングを図ることを目的に、大学生及び求職者向けの経営者１日同行プログラムを実施した。

日時
第1回：平成28年9月20日から23日　　第2回：平成29年2月21日から24日

受入企業
株式会社グリーンデイズ / はやき風株式会社 / 有限会社風間総合サービス
有限会社アップライジング / カテル有限會社 / 有限会社国分寺産業

成果

・関わったことのない地元企業の理解を深めたり経営者の価値観に触れたことにより、起業も含めた多様なキャリア選択があることを提示できた。

延べ参加者 / 30名
延べ協力者 / 8名
活動時間 / 82時間

若者による社会をよくするスタートアッププログラム　iDEA→NEXT

とちぎの新しい物語をつむぐ。

　ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する。そういった意思を持った若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会をよくする活動を促進するアイデアの実現のために、若者が県内の地域活動実践者や経営者、同じ志を持つ若者同士や、オーディエンス（最後の公開審査会における一般観覧者）とつながる場です。またつながりによって、アイデアを持った若者がさらに自身のプロジェクトを加速させ、さらなる成長を生む機会にもなっています。

実　施　状　況

　2016年9月24日に募集を始めた今年度のiDEA→NEXT。締切後、1月中旬に合宿プログラムを実施し、2ヶ月間のブラッシュアップ期間を経て、3月12日に宇都宮大学峰が丘講堂で一般の方を前にファイナルプレゼンテーションを行いました。
　ファイナルプレゼンテーションはエントリーの後、2度の審査を突破してきたファイナリストたちがオーディエンス・審査員の前でアイデアプレゼンテーションを行う公開審査会。2ヶ月間に渡りブラッシュアップした、自身の活動スタートを宣言する舞台でもあります。またプレゼンテーション終了後、ミニポスターセッションの時間ではファイナリストとオーディエンス、審査員の交流が行われました。最後にオーディエンスと審査員の投票に基づき、ビジネス部門とアクション部門に分かれた今回は以下の各賞が送られました。

■とちぎんグッドアイデア賞（企業賞）
　宇大生シェア化計画　飯ヶ浜綾乃、石原明典、高橋里佳
　宇大生シェア化計画
■オーディエンス特別賞
　齋藤宏
　自己肯定感UPのための風船講座
　「不登校・ニート」がBalloon HEROESに変身!
■優秀賞　計5組
■ビジネス部門グランプリ
　濱野　将行
　市民参加型 支え合いプロジェクト 緑側ネットワーク
■アクション部門グランプリ
　木津　英美里
　高校生のための地域密着型スタディ・カフェ

iDEA→NEXTギャザリング

新年明けて間もない1月半ば、毎年iDEA→NEXTの幕開けとなるのが1泊2日のこの合宿プログラム。合宿の中で、エントリー者がメンター（※特定の領域において知識、スキル、経験、人脈などが豊富で成功体験を持ち、役割モデルを示しながら指導・助言などを行う人）との意思交換を通じ、アイデアブラッシュアップを図ることが目的です。

アイデアと本気で向き合う2日間

ソーシャルビジネス実践者の方のお話に始まり、自身のアイデアを初めてプレゼンを行いフィードバックをもらう、そしてメンタリングなどを通じて、アイデアブラッシュアップを行っていきます。それらのインプットとアウトプットを行っていくことでアイデアを深化させ、自らのアイデアを紙に起し、書類による1次審査の対象となるプランシートも作成していきました。

毎年この時間は「脳に汗をかく」と表現していますが、この時の熱気は毎年本当にすごく、エントリー者たちの2日間はあっという間に過ぎてゆきました。

親睦を深めた交流会

また1日目夜には交流会も実施。エントリー者たちはライバルというよりともにアイデア実現を目指す仲間として、友情を深め合った時間となりました。

ファイナリストの声

●自分でやろうと思っているよりも、何倍も濃い時間を過ごすことができたことで、アイデアを進めていく上での加速度が増した。「実現」に向けた現実的な視点と自信が身につきました。何より覚悟ができました。

●自分の頭の中で考えていたことが、多くのアドバイスをもらい、具体的な形となり行動するまでに至った。考えをどういう形であれ、外へ出すことで、広がるということを知れたこと、またそれに対して一生懸命一緒になって向き合ってくれる人が多くいることを知れた。

協賛企業・団体／個人寄付

協賛企業A　株式会社栃木銀行
協賛企業B　株式会社キッズコーポレーション　行政書士久我法務事務所
こらぼワーク　株式会社ジード　株式会社サムライトサムシング
協賛企業C　株式会社アール・ティー・シー　合同会社Crew　有限会社コーチ精機
株式会社五光宇都宮店　株式会社ワークエントリー栃木事業部
寄付・個人協賛　新井 裕子　安西 克巳　安藤 正知　安藤 芳樹　石塚 明由子
伊藤 正嗣　加藤 裕貴　カヌマ大学　川島 優太　ここからいふ広場　小澄 敏和
小林 かぐみ　小堀 良太　近藤 千園　佐藤 大地　鈴木 彩華　鈴木 孝美　砂田 薫
高松 英男　田中島 浩子　土崎 雄祐　内藤 さつき　中村 浩輔　野口 武
パソコン太郎　林 和輝　福田 燈　藤井 佐知子　逸見 栞　堀井 雅行　松本 昌宏
簑田 理香　三村 友宏　門間 大輝　山崎 善生　湯本 浩之　吉澤 幸彦
株式会社リアンコーポレーション　林 書緯

審査員の皆様

伊藤 和	栃木県産業労働観光部経営支援課　中小・小規模企業支援室長
太田 周	大学コンソーシアムとちぎ　副理事長
	作新学院大学　作新学院大学女子短期大学部　学長
大塚 雅斗	株式会社キッズコーポレーション
大西 盛明	公益財団法人栃木県経済同友会　社会貢献活動推進委員会　委員長
	株式会社オニックス・ジャパン　代表取締役
加藤 久美子	日本政策金融公庫　佐野支店　国民生活事業部　支店長兼事業統括
小久保 行雄	有限会社ドンカメ　代表取締役
松本 春枝	NHK宇都宮放送局長
林 書緯	一般社団法人とちぎニュービジネス協議会　副会長
	株式会社グリーンデイズ　代表取締役

ブラッシュアップ研修

1次審査を突破したエントリー者たちは引き続き毎週火曜日に集まり、さらに1ヶ月弱にも及ぶブラッシュアップ研修期間を設けました。

ブラッシュアップを続けさらなる深化を

ギャザリングに引き続き、県内の実践者であるメンターの協力を得て、ときには現場に赴くことで、人と地域とつながり、自らのアイデアをどんどん深め実現に向け、さらに表情に真剣みを帯びていくエントリー者たち。「若者による社会をよくするスタートアッププログラム」であるiDEA→NEXTが最も大切にしているのが、若者がこの機会と場を得て、自分自身で価値を作り出せるようになることなのです。

新チームも途中合流

ブラッシュアップ期間中には、宇都宮市主催の宇都宮大学講座「起業の実際と理論」の授業内コンテストにおいてグランプリを受賞した組も受賞特典として途中合流し、この時点で今年度の挑戦者全9組が出揃いました。

2次審査と最後のブラッシュアップ

そして2月末には2次審査となるプレゼンテーション審査会を実施。この審査も突破し、3月12日に行われるファイナルプレゼンテーションにてオーディエンス（一般観覧者）の前で自身のアイデアを発表する権利を得た8組のエントリー者たち（=ファイナリスト）。一人でも多くの協力を得られる精度の高いアイデアへと深化させるため、2次審査を経てなお、ファイナルプレゼンテーションへ向けて、そしてアイデア実現のために、さらなるアイデアブラッシュアップは続いていきました。

オーディエンスの声

●当事者の熱い思いが伝わりました。

●アクションプランで捉える社会の問題点や課題が見る人にわかると、よりリアルに感じられそうな気がしました。

●若者がこんなにも素晴らしい考える力、実行力を持っていることに驚いた。自分も行政に勤めている若者であるので、何らかの形で応援したいと強く感じた。

●みなさん、とてもユニークかつよいアイデアでした。とても面白かったです。応援しています！

メンターの皆様

安藤 正知	宇都宮市まちづくりセンター　センター長
大樹 直人	有限会社ロケットウェブ　代表取締役
大波 龍郷	マチナカプロジェクト
清嶋 磨利夫	株式会社キップルネットワーク　代表取締役
近藤 千園	C.K.コンサルティング＆コーチング
塩澤 達俊	公益財団法人とちぎYMCA
篠原 永知	宇都宮市産業政策課
田中 義博	こらぼワーク　専務理事
塚本 竜也	NPO法人トチギ環境未来基地　理事長
中野 謙作	一般社団法人栃木県若年者支援機構　理事長
中村 浩輔	もてぎ里山らいふプロジェクト
野崎 千晶	株式会社ワークエントリー栃木事業部
三村 友宏	栃木県地域振興課
八木 茂	宇都宮市社会福祉協議会
吉野 清史	宇都宮市産業政策課

SPECIAL THANKS

■MC/イベント構成協力：冨樫 奈美子　■iDEA→NEXT PV作成：船田 貴久
■運営スタッフ：五十嵐 圭　太田 祐司　菊地 雄太　小林 かぐみ　内藤 さつき
橋本 紗由理　佛川 夢真　望月 崇史　吉田 直樹　（以上全て敬称略）

成果

・今年も一般社団法人設立や、学生のカフェ運営などファイナルプレゼンテーション後に社会でアクションを起こす若者を輩出できた。
・5年のプログラム運営で、アクションを起こす若者を確実に増やしつつある。

プロジェクト数：2組
エントリー：9組11名
のべ参加者数：134名
のべ活動時間：677時間
のべ協力者数：38名

課題

・より的確なメンタリングを行うために分けた「アクション部門」と「ビジネス部門」をうまく機能化させることができなかった。
・アクションを起こす若者は増えつつあるが、そのネットワーク構築はまだ発展途上である。そのテコ入れも課題。

スタートアップ支援事業

ソーシャルグッドカフェ / 社会をよくするシゴトのつくりかた / ソーシャルビジネス留学

社会をよくする大きな一歩のための、一人ひとりの小さな一歩を

日本を取り巻く環境は、社会課題の増加にとどまらず、質的にも多様化・複雑化している状況にあり、この現状打開には、行政や既存の支援団体に頼ることなく、地域に住む市民一人一人が小さなアクションを継続して行っていくことが求められています。「身近な地域をよくしたい」「困っている人を助けたい」そんな想いやアイデアを持つ方を対象に、ソーシャルグッド（“社会によいこと”）な取り組みを知って体験したり、自身のアイデアをカタチにする考え方や知識・スキルを学びアクションにつなげるプログラムとして実施しました。（※宇都宮市特定創業支援事業の一環）

実施プログラム

ソーシャルグットカフェ
・9/24(土)　社会起業家によるゲストトーク＆トークセッション「ソーシャルグッドのこれから」
　　講師：矢島里佳 氏、宮治勇輔 氏

社会をよくするシゴトのつくりかた
・10/12(水)　シビックエコノミーから学ぶ社会をよくするシゴトとは？　講師：江口晋太朗 氏
・10/26(水)　先輩起業家の事例を学ぶ　講師：北池智一郎 氏
・11/ 9(水)、11/30(水)　事業アイデアのつくりかた

ソーシャルビジネス留学
・11/25(金)、12/2(金)、12/9(金)　一般社団法人栃木県若年者支援機構しごとや
・12/5(月)、12/6(火)　合同会社Crew　学習塾クルーキッズ鹿沼
・11/29(火)、12/5(月)、12/6(火)、12/7(水)　企業組合とちぎ労働福祉事業団こらぼワーク
・12/8(木)　認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク　フードバンク宇都宮

成　果

・セミナーおよびソーシャルビジネス留学参加者からアイデアネクストへのエントリーが2名あり、セミナーをきっかけに自分のアイデアのさらなるブラッシュアップに意欲的に取組む動きにつなげられた。

のべ参加人数 / 92人
活動時間 / 308時間
のべ協力者 / 8人
受入団体：4団体

課　題

・開催が平日夕方のため仕事の都合で講座を休む参加者が見られ、ワークシートの記入が進まなかった。今後はメールでのやりとりや個別対応をする必要がある。
・留学先とのマッチングが、適していなかったケースがあった。

起業・創業ネットワーク事業

大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目「起業の実際と理論」

栃木の魅力的な経営者達から学ぶ起業家精神養成講座

宇都宮市産業政策課主催、宇都宮市の地域経済を担う人材の育成を目的に実施される産学官連携講座を宇都宮大学にて開講。栃木県内で活躍する企業家による専門性の高い講義のほか、チームごとに具体的なビジネスプランを作成する演習を通して実践力を高めるカリキュラムを実施した。起業を強く意識する大学生だけでなく、就職を検討する受講生にとっても幅広いキャリアプランを考えるために必要な技能と価値観を醸成することができた。

実施プログラム

日時 / 平成28年10月から3月までの毎週月曜 16：10～17：40（全15講）
会場 / 宇都宮大学峰キャンパスラーニングコモンズ2
受講者 / 37名（学生32名、社会人5名）
カリキュラム /
・企業におけるコンセプトづくり：綱川仁士氏（株式会社下野新聞社　営業部長）
・ターゲット設定、マーケティング：水沼啓幸氏（株式会社サクシード　代表取締役）
・会計、取引、資金調達：田中義博氏（企業組合とちぎ労働福祉事業団　専務理事）
・先輩経営者に学ぶ：林書緯氏（株式会社グリーンデイズ　代表取締役）、藤井大介氏（株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー　代表取締役社長）、脇山拓也氏（株式会社フェルマー　取締役副社長）
・アイデアブラッシュアップ
・ビジネスプラン発表会：審査員 伊川夢起氏（合同会社Crew 代表）、大樹直人氏（有限会社ロケットウェブ 代表取締役）、久我臣仁氏（行政書士久我法務事務所代表パートナー）、 倉持渚氏（株式会社栃木銀行　法人営業部）、砂田薫氏（国立大学法人宇都宮大学　特任准教授）、浜村美香氏 （税理士法人浜村会計　税理士・常務）、吉野清史氏（宇都宮市産業政策課　課長補佐）

アントレプレナーズセッション
-欲しい未来と社会を自分たちで作る挑戦者トークセッション- /
　地域の起業家や学内ベンチャー経営者などを招き、地域に新たな価値を創出する取り組みと物語に触れるトークイベントを開催。
日時 / 平成28年7月23日（土）　10：00～12：30
会場 / 宇都宮大学峯キャンパスUUプラザ2階
ゲスト / 林書緯氏（株式会社グリーンデイズ　代表取締役）
　　綱川仁士氏（株式会社下野新聞社　営業部長）
　　脇山拓也（株式会社フェルマー　取締役副社長）
　　柴田真由氏（文星芸術大学内ベンチャー
　　株式会社ヤッペ社長）
参加者 / 27名

成　果

・例年を大きく上回る受講者を集めることができたほか、宇都宮大学以外の大学からの受講生も獲得することができた。
・ビジネスプラン作成のための時間を充実させ、プラン発表会の審査員（経営者・起業支援者）からも高い評価を頂くことができた。

のべ参加人数 / 557名
活動時間 / 940時間
のべ協力者 / 47名

課　題

・チーム数が大幅に増えたことから、各チームのブラッシュアップが昨年度ほど徹底できなかった。

とちぎ地域づくり担い手育成事業・スキルアップＰＬＵＳ

新たなとちぎの地域づくりの担い手を掘り起こし、育み、輩出。分野地域を越えた協働の地域づくりネットワークを構築。

平成20年以降、人口の減少傾向が続き、特に若者世代の人口流出が目立つなど、今後の地域社会を担う人材の不足が懸念されている一方、大学に新たな学部が創設されるなど地域づくりへの関心が高まりつつある。しかしながら、実際に地域づくり活動を実践する人は限られ、興味・関心があっても容易に一歩を踏み出す環境が整っていないのが現状に対して、次世代を担う若者の地域づくり人材の掘り起こし、興味・関心・アイデアの醸成、地域づくりの担い手のスキルアップ育成を行った。加えて、さらに本事業で学んだ人材が、地域づくり活動に取り組むなど好循環を確立し、分野や地域を越えたネットワークを持ち、協働・連携の地域づくり活動が推進される仕組みを創る。

実施プログラム

次世代を担う若者の地域づくり人材の掘り起こし
8/21（日）“若者×地域づくり”セッション

地域づくりの興味・関心・アイデアの醸成
9/3（土）はじめての人のための人が集まる地域づくりワークショップ
風間総合サービス取締役　焙煎士　風間教司　氏
ＮＩＫＫＯ高校生ボランティアネットワーク　福田綾乃氏　小林大地氏
トチギええじゃないか　代表　粟野倫世

地域づくりの担い手のスキルアップ育成
11/5（土）地域づくり活動に必要な運営のイロハを学ぶ
NPO法人トチギ環境未来基地　理事長　塚本竜也　氏
NPO法人くまの木　里の暮らし　事務局長　加納麻紀子　氏
11/12(土)　外部資源獲得(ボランティアコーディネートと資金調達
NPO法人トチギ環境未来基地　理事長　塚本竜也　氏
READY　FOR株式会社　樋浦直樹　氏
当会　石川慎太郎
11/26（土）事業計画・行動計画書の策定と達成評価
当会　岩井俊宗

地域づくりフィールドワーク
11/19（土）NPO法人くまの木　里の暮らし
11/20（日）NPO法人トチギ環境未来基地
11/23（水・祝) ファーマーズマーケット＆レストラン＆ゲストハウスChus

ネットワーク形成
2/12（日）　受講者交流会「tochigi innovators session」

スキルアップＰＬＵＳ
1/28（土）地域づくり基調講演＆ワークショップ
豊重哲郎氏に学ぶ「リーダーシップ」
『地域再生―行政に頼らない「むら」おこし』 著者
やねだん 公民館長　豊重哲郎 氏
2/12（日）地域づくり基調講演＆ワークショップ
高野誠鮮氏に学ぶ「人を巻き込む方法」
『ローマ法王にお米を食べさせた男』　著者　高野誠鮮 氏

成　果

・地域づくりに興味関心があっても一歩を踏み出す環境が整っていない現状を踏まえ、実際に地域づくり活動を実践する人材を掘り起こし、育成し、実践化させていくプログラム開発し、連動した運営展開ができた。
・ゲスト・受講間のネットワーク形成(FBグループ「tochigi local innovators」)と受講生が活動実践している。

のべ参加人数 / 248人
活動時間 / 982.5時間
のべ協力者 / 18人
受入団体 / 3団体

課　題

・全体的な課題でもあるが、特に若年層に地域づくりへの訴求が弱く、参加者が少なかった。
・多様な人材との接触を想定して、総花的で抽象的“地域づくり”見せたが、それがうまくいかなかったと分析。今後は、地域づくりを具体、現場、実践接触で見せていく。

とちぎ週末インターンシップ事業 はじまりのローカル コンパス

都市部に住みながら、栃木県の地域プロジェクトに行き来する

栃木県へのＵＩＪターンを検討している（又は興味・関心がある）東京圏在住の若者と、実際に栃木県にＵＩＪターンし活躍する地域リーダーや地域活性化プロジェクトを継続的・有機的に結びつけることで「ＵＩＪターンの促進」・「これからのとちぎを支える若者の育成」・「外部人材が継続して地域に関わることによる地域活性化」を目指すプロジェクト。移住ほどハードルが高くなく、観光よりもより地域に関われる機会を創出することで、都市部に住みながら栃木県の地域づくりに関わってくれるファン（関係人口）を増やすツアーを開催。

実施プログラム

東京での説明会やイベント
9/8（木）しごとバー「とちぎに行き来しナイト」
9/16（金）トークイベント「あなたのローカル、見つけませんか？」
9/18（日）説明会＆座談会
10/29（土）地域仕掛け人市出展
11/23（水・祝）交流イベント「とちぎを思いっきり楽しめる日」
3/23（木）トークイベント「MEET UP tochigi」
※共催：ベリーマッチとちぎ

暮らしとしごとをめぐる旅
12/17（土）足利市・鹿沼市　vol.01モノづくり編
1/21～22（土日）　那須町・那珂川町　vol.02自然に寄り添う暮らし編

ひととまちとつながる旅
第１回目　オリエンテーション「地域の歩き方」１０／８（土）
第２・３回目　フィールドワーク
　まちなか編　栃木市　11/26～27（土日）、12/10～11（土日）
　さとやま編　益子町　10/22～23（土日）、11/19～20（土日）
第４回目　報告＆交流会
　1/28（土）「あなたのローカル、見つかりましたか？」

はじまりのローカル コンパス ちょっととちぎへ！

成　果

・ツアーを通した都市部の人材と地域プロジェクトのマッチングにより、継続したとちぎとの関わりが生まれた。
・参加者の自己実現や地域に新しい居場所をつくることができた。

のべ参加人数 / 246人
活動時間 / 1477時間
のべ協力者 / 100人
受入団体：11団体

課　題

・2年目となり認知度の向上や協力者も増えたが、一部のツアーで定員が埋まらなかった。開催時期など検討余地あり。
・空中戦の情報発信が多く、地道に人とつながる広報が足りなかった。都内にもっと仲間をつくるなど工夫する余地あり。

ローカルベンチャー育成

平成21年に制度が始まり、全国の様々な自治体で導入される地域おこし協力隊。成功事例とともに地域との関係づくりや退任後を視野に入れた生業づくりで悩みを抱える事例も報告されている。今年度より同制度を導入する栃木県那須烏山市において、着任者が地域課題を分析し、課題解決のためのビジネスモデルを展開しながら地域に定着するための技能やネットワークを構築するための研修を実施した。
着任初年度のゴールとして、①地域の現状を正しく理解すること、②現状から浮き彫りになった地域課題を解決するためのビジネスモデルを手に入れる。以上2点を設定し、約半年の研修と活動成果の報告会を実施した。

実施プログラム

日時 / 10月～3月29日（全12回）
会場 / 那須烏山市内
受講者 / 3名（那須烏山市地域おこし協力隊）

カリキュラム
オリエンテーション・市内団体視察（2回）
フィールドワーク講座（3回）：結城史隆氏（白鴎大学教育学部教授）
経営基礎知識・ビジネスプラン作り（2回）：清嶋磨利夫氏（株式会社キップルネットワーク）
企画づくり演習（3回）
活動報告会・振り返り（2回）

ローカルインターンシップ
市内で活動する地域づくり団体や事業者のもとに3ヶ月程度所属し、移住者の視点やノウハウを活かして新規プロジェクトの試行や既存の取り組み改善に向けた提案を行った。既存の地域活動の中から地域の地域資源や課題を把握するとともに、それぞれが現場の方と関わることによって、深い関係構築を図ることができた。

受け入れ団体
一般社団法人里山大木須を愛する会
NPO法人那珂川流域悠遊会
烏合の手

成　果

・地域とのかかわり方といった実践技能と、創業のノウハウなどの知識面の双方の習得を図ることができた。
・各隊員が地域で感じた課題を解決するプランを作成し、実行計画まで作成することができた。

活動時間 / 430時間
のべ協力者 / 26人

課　題

・隊員が個別に挑戦するプロジェクトへの支援体制の拡充。

とちぎ手仕事プロジェクトFukuFuku

助成：住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム－活動・研究助成－2016年度

若者がプロデュース！
栃木と福島をつなげるモノづくり

手仕事支援プロジェクトFukuFukuは、復興支援への若者の参画機会の創出を図りながら、福島県の被災者における生きがいづくりやコミュニティづくりを目的として、2012年立ち上げ以来、今年で５年目を迎えた。復興が長期化する一方で、現地の著しい状況変化への対応の難しさや活動支援金の減少により、活動団体の減少や震災の風化が深刻化している。そんな中、今年度は現状に合わせた活動内容の転換を図り、方向性の見直しにはじまり、質の高い魅力的な商品開発や新しい切り口からのイベント企画運営、復興公営住宅への活動展開等、新たな挑戦を行った。

※新たに開発した新商品　４種

実施プログラム

（１）商品開発
・商品開発　4点
– FUKU NO MI TENUGUI
– YELL FUKIN
– Omamori Handkerchief
– オーダーメイドマフラー

（２）消費者の開拓と情報発信
・Handmade Café
実施日：10/9(日)
協力店舗：京屋茶舗　　講師：小林きみえ 氏
・手と手をつなごう　ー飛び出すクリスマスカードづくり・ワークショップー
実施日：　11/23(水)
協力店舗：BOOK　FOREST　講師：岩崎進 氏
・ 福島のオリーブで草木染めしよう！ワークショップ
実施日：6/14(火)

（２）生産者に出会い、商品の物語を知るバスツアー
・手と手が出会う旅Summer＆Spring
実施日：9/5(月)、3/21(火)
協力団体：広野町手芸有志、フクシマ環境未来基地、いわきオリーブプロジェクト

（３）福島でのイベント企画運営
・手仕事会@復興公営住宅（宮沢団地）
実施日：3/30(木)
・ユースワークキャンプ2016 in福島～震災支援で社会貢献にチャレンジしよう！今こそ、私たちにできること～
実施日：①5/21~2 ②7/2~3 ③9/12~13 ④11/26~27 ⑤1/21~22 ⑥3/13~14
協力団体：フクシマ環境未来基地、3.11被災者を支援するいわき連絡協議会

（４）県内震災支援団体との連携と情報共有
・震災勉強会
実施日：3/27(月)
参加団体：県内にある震災支援団体（あおぞら、宇大UP）

成　果

・引っ越しして間もない復興公営住宅では、ワークショップの企画を通して新しいコミュニティ構築のきっかけを提供できた。さらに、この企画をきっかけに自主的かつ継続的な活動に展開する等、新しい流れをつくることができた。
・商品開発では、大学生や若手社会人のメンバーが中心となり意見を出し合い取組んだことで、これまでの作り手主導の商品とは異なり、若者好みのデザインや仕掛けを取り入れた商品を作ることができた。それに加えて、同世代の新規の買い手開拓や作り手と買い手を繋げることを目的として、新しいアプローチのイベントも企画することができた。

のべ参加人数 / 239人
活動時間 / 1519時間
のべ協力者 / 56人

取扱商品 / 21品目　総売上個数 / 85個
総売上金額 / 94,480円

課　題

・コミュニティづくり、生き甲斐・やりがいづくりを行なうために、商品を生産・販売しなければならない。生産面ではより商品のクオリティを高めるため、作り手のスキルをあげつつ、販売のための在庫確保をする必要がある。また、販売面では大口のBtoB取引や、ネットショップ開設を行ない、幅広く商品のPRおよび販路拡大を目指す。
・復興公営住宅での新しい作り手開拓に取り組む一方で、既存の作り手グループでは、帰還に伴う生活拠点の分散が生じ気軽に集まることが難しくなっている中、状況に合わせた集まる機会を創出していく必要がある。

愉快ライター

宇都宮ブランド推進協議会の公式FBページ「宇のコト」を執筆する

市民の目線で宇都宮市の広報をする市民ライターを募集。9名のライターが活躍。ただFBを書くだけではなく、プロの講師より三度の研修を受け、取材をし投稿。一か月に一度投稿してもらい一番いいね、シェアがあったライターには表彰。

実施プログラム

募集期間：9/7（水）～9/27（火）
研修：10/13、12/8、2/9

成　果

・市民による宇都宮市の魅力発信。内部からはわからない市民目線での宇都宮を広報。

課　題

・それぞれの興味関心を上手く投稿に反映する事、スケジュール管理をより工夫する必要がある。参加者の自己表現が確立している人には研修をしても届かない場合があり改善の必要がある。

宇都宮市民シティプロモーション支援

宇都宮ブランド戦略指針に掲げる「市民の誇りの醸成」と「市外からの憧れ（来訪意欲）」をより一層促進するために、市民自らが、新しい視点で宇都宮の魅力を発見・発信する事業で、波及効果が期待できる活動を支援。事務局を務める。

実施プログラム

7/19（火）募集開始
7/26（火）事前説明会
8/19（金）募集締切
8/23（火）書類審査（第1次審査）
8/24（水）第1次審査結果通知
8/30（火）選定委員会・プレゼンテーション審査（第2次審査）
9/1（木）選定委員会（第2次審査）結果通知
9/26（月）、10/18（火）、10/31（月）、2/7（火）　活動支援
12/19（月）中間報告会
3/28（火）成果報告会
3/30（木）実施報告書の提出締切

15団体の募集があり5団体を採択。事務局として毎週ブラッシュアップ。

5団体（作新学院自転車部・サイクルスポーツマネジメント株式会社・株式会社ピースノート・レクスタ・栃木リビング新聞社）

レクスタはアイデアネクストより始まり、より広がりを見せた。パラパラ漫画と公の広報物との相性の良さは抜群。

ユースが事務局を務めるにあたり、事業所のみの支援をするのではなく、学生団体の支援を入れ、補助金としては異例の9/10助成を完成させた。

成　果

・ 1年を通じてブラッシュアップし、支援対象団体に密に寄り添うことができた。宇都宮市を盛り上げる新しい仕掛けを作った。学生の町への愛着や興味を増幅させた。

課　題

・支援対象団体同士の横の連携強化。実施期間の短さにおける支援対象団体の事業加速が弱かった。

会員限定交流会 YOUTH TIME

それぞれの事業加速と課題解決に向け
次の一手を生み出す時間

会員限定交流会として2014度から開催。当会会員の企業の方や地域でアクションを起こしたい若者まで様々な方が集っている。隔月開催し、今年度の主なコンテンツは、ユースと事務局による課題解決ワークショップ・会員によるミニセミナー・ゲストを招いた活動報告とトークイベント、交流タイム。ゲストとのトークイベントは今年度から始まり、初回は会員でもある世代間交流プロジェクトチームつむぎの濱野氏、キーデザイン土橋氏、クロスアクション渡邊氏（当会ユーススタッフ）といったユースと馴染み深い3人をゲストにしたトークイベントとなった。

実施プログラム

7/1（金）vol.11　ゲスト：下野新聞 桐生氏
9/2（金）vol.12　会員と事務局の課題解決ワークショップ
11/3（金）vol.13　ゲスト：世代間交流プロジェクトチームつむぎ 濱野氏
　キーデザイン 土橋氏　クロスアクション 渡邊氏
1/20（金）vol.14　ゲスト：レクスタ加藤氏
3/3（金）vol.15　ゲスト：実践型インターンシップ卒業生
　太田氏（とちぎボランティアネットワーク）
　橋本氏（くまの木里の暮らし）

成　果

・新しい企画として、トークイベントが生まれ、ゲストにスポットを当てつつ、よりゲストの魅力を引き出せる機会となった。
・昨年度に引き続き、会員による自らのプロジェクト発表・告知の場としても機能し、会員同士お互いの進めているプロジェクトを確認できる機会となっている。

とちぎ学生未来創造会議2016

当会が運営事務局を務めるとちぎ学生未来創造会議は、社会課題を自ら発見し、解決・改善するために主体的に行動することのできる人材を育むことを目的にセミナー企画運営を行っている。前年度も実施した「とちぎ未来留学」に加え、「とちぎ学生未来交流会」を実施し、社会活動の経験の無い学生にも意識付けの機会を提供することができた。

実施プログラム

とちぎ学生未来交流会
第1回：6/4（土）
第2回：7/3（日）

とちぎ未来留学2016
9/24から10/30（オリエンテーション・報告会含め全3日）
地域づくり現場フィールドワーク受け入れ団体：
認定NPO法人だいじょうぶ（日光）、マチナカプロジェクト（栃木）
NPO法人トチギ環境未来基地（茂木）、クロスアクション（那須烏山）
世代間交流プロジェクトチームつむぎ（大田原）

成　果

・大学生に対して、社会活動現場に足を運ぶ機会を提供するとともに、受け入れ団体や運営委員との継続的な関わりも生み出すことができた。

のべ参加人数 / 119人
活動時間 / 681時間
のべ協力者 / 31人

その他・講演・ワークショップファシリテーター等

実施プログラム

またその他にも下記の事業を実施。
・さくら市グリーンツーリズム
・とちぎボランティアネットワーク運営サポート

講師派遣等
三条南部自治会総会_若者の力を活かしたまちづくり、宇都宮コミュニティFM 情報フォーラム、栃木銀行ベンチャーピッチ審査員、西地区まちづくり研修会 若者の力を活かしたまちづくり、ドリームプランプレゼンテーション2016審査員、民ボラ2016 クロージング、茨城県社協 若者を巻き込むボランティアコーディネーション、宇都宮北高校 キャリア教育、茨城県県西生涯学習センター「ヤングボランティア講習」、目白大学 地域振興論、小山市まちかど美術館 挑戦する若者たち、コムラボ記念イベント マチノテトークセッション、倫理法人会中央、宇都宮市商工会議所 創業塾 ソーシャルビジネス、若者を呼び込む講座(トチギ環境未来基地）、マチノコトオープンダイアログ（マチノコト）、栃銀ビジコンメンタリング、宇大国際学部 ワークショップで学ぶ市民活動、ツールド・トチギPR事業審査員、県河川課、真岡市市民活動推進センター、宇都宮大学ホームカミングデー新国際学部シンポジウム、とちぎ協働大会 次代を拓く人を創る協働、戸田市 市民の知ってるようで知らない世界、ボランティア養成講座 in 結城市、とちぎソーシャルビジネスセミナー、まちなかフィールドワーク、大学・地域連携支援プロジェクトアドバイザー、県社協 ボランティアコーディネーター養成、宇都宮共和大学和田ゼミ指導、STONY 県南行政職員勉強会、清泉女子大学 PBL、地域包括ケア 挑戦する若者たち、戸田市市民大学 企画づくり、下野市課題解決型協働とプラットフォーム組織、NIKKO+ まちづくり人材の育成、パブリックビジネス研究会、大学 地域連携支援プロジェクトアドバイザー、ユースチャレンジ成果報告会、雀宮まちづくりワークショップ、起業家フォーラム

5/23　ミヤラジ開催「地域メディア・フォーラム」に出席する当会岩井（写真は下野新聞より）

成　果

のべ参加人数 / 1764名
プログラム実施回数 / 66回
協力者 / 147名
総活動時間 / 5027時間

古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ　ホン de チャレンジ

読み終えた本が寄付になり、
若者による社会をよくするチャレンジをサポート

ご自宅や職場で不要になった書籍やＣＤ、ＤＶＤを株式会社バリューブックスが買い取り、その相当額が当会に寄付されるファンドレイジングプログラム。いただいた寄付金については全額「若者による社会をよくするスタートアッププログラムiDEA→NEXT（アイデアネクスト）」の運営資金・受賞者への活動支援金などに充てさせていただいている。例年栃木県内だけでなく、日本全国から多くの方のご支援をいただいている。

※株式会社バリューブックス協働事業

２０１６年度寄付について

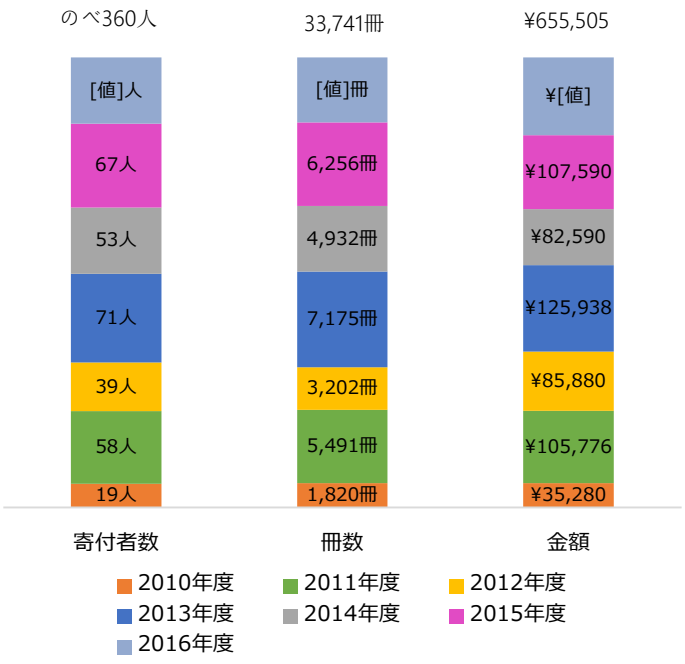
本を寄付してくださった方
53人

寄付冊数
4,865冊

総額
113,028円

なお上記の寄付金額につきましては当団体の事業「iDEA→NEXT」運営資金に充てさせて頂きました。
今年度も皆様のご支援、誠にありがとうございます。iDEA→NEXTにつきましては本報告書のP.７～P.８をご覧下さい。

2010年度からの推移について寄付について



期間：2010.10.01　～　2017.03.31

2010年度10月より開始したホン de チャレンジ（ホンチャレ）。それぞれの年度の成果は左図のようになっている。

2016年度は（本事業が10月にスタートした2010年度を除き）過去2番目の寄付金額をいただくことができた。伸び悩んだ2014年度から安定した伸びを見せている。要因としては毎年行われる寄付金額20%UPの年末年始のキャンペーンに多くの寄付があったことがあげられる。特に12月の寄付額がここ数年で最多となっており、当該キャンペーンの周知に一定の成果があった。

一方で寄付者数、寄付冊数は低い結果になってしまった。多くの人の支援を得られることに意義があるプログラムなので、寄付金額よりもそちらを課題ととらえ、2017年度も周知活動へ励んでいきたい。

また古本回収BOX協力団体としては下野新聞NEWS CAFÉ終了したものの、新たに1団体の協力を得られることになり、以下の6団体様から継続的な支援をいただいている。

古本回収BOX設置団体

- 宇都宮市まちづくりセンター　まちぴあ
- 栃木県青年会館コンセーレ
- 宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター
- 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク
- 宇都宮ベンチャーズ
- 栃木市社会福祉協議会「岩舟支所」 **【*NEW!!*】**

これまでの寄付総計

本を寄付してくださった方
360人

寄付冊数
33,741冊

総額
655,505円

成　果

・年末年始の買取UPキャンペーン中に数多くの古本寄付をいただくことができ、当該キャンペーンの周知に成功した。また貴重な宇都宮市外での古本回収BOXを設置していただくことができた。

課　題

・寄付者数、寄付冊数としては低水準に終わってしまった。多くの寄付者に協力していただけるために対外的な周知を見直さねばならない。

ユース年末寄付キャンペーン

若者のソーシャルプロジェクト（社会貢献活動）の加速のために今年も寄付キャンペーンを行った。今年度のキャンペーンでも昨年に引き続き、若者による社会をよくするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」の深化と拡大、そして、若者の挑戦の”見える化”をテーマに打ち出した。

また、企業においてはiDEA→NEXTの協賛も同時に募集。今年度はクレジットカード寄付のシステムを取り入れたため前年を大幅に上回るご支援をいただくことができた（昨年度参考：494,580円）。加えて、初めてNPO、大学、企業、行政などで寄付に係る主な関係者が幅広く集う「寄付月間」に参加した。

2016年度寄付キャンペーン
（2016.12～2017.03）

575,539円

寄付者/起業：　**39**　名
協賛企業　　：　**12**　社

協賛企業13社

株式会社アール・ティー・シー
協同組合宇都宮餃子会
株式会社キッズコーポレーション
行政書士久我法務事務所
合同会社Crew
有限会社コーチ精機
株式会社五光宇都宮店
こらぼワーク
株式会社サムライトサムシング
株式会社ジード
株式会社栃木銀行
株式会社ワークエントリー栃木事業部
（五十音順・敬称略／寄付者は裏表紙に記載）

成　果

・昨年度より大幅に支援額の増加した。
・クレジットカード寄付の仕組みを導入したことで、草の根的な個人寄付者の数も大幅な増加となった。

課　題

・クレジットカード寄付導入に伴い個人寄付者が増加したのと同様に、協賛企業の方にも簡単に支援をいただけるシステムを確立していきたい。

gooddo

インターネットを介し、支援者による金銭の自己負担なしでgooddoサイト上の「応援する」ボタンのクリック、もしくは同サイトを経由して楽天市場にてインターネット通販を行うことなどでNPO・NGOに支援金が送られるファンドレイジングプログラム。

手軽に自己負担なしでクリックや買い物だけで寄付が行える仕組みとして好評をいただいている。またクリックでの応援は1回につき20～1,000ポイントの間でランダムに団体へポイントが届けられ、一週間毎に貯まったポイントに応じて団体への寄付金が決定する仕組みになっている。

ランダムなポイントが入る…というエンターテイメント性も含むこと、そしてgooddoはその獲得ポイントをソーシャルメディア（SNS）拡散が簡単に出来るようになっており、それにより一段と支援の輪が広まりやすくなっている。

※gooddo WEBサイトより

2016年度寄付について（2016.04～2017.04）

37,049円

※差引手数料を除く

成　果

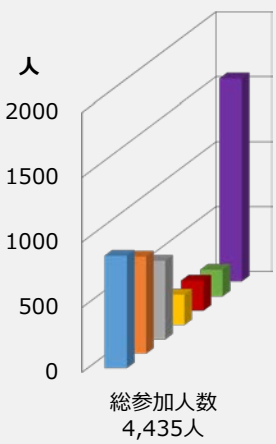
・手軽にできる支援として継続的に支援をいただけている。また金銭負担が0なので紹介がしやすい。

課　題

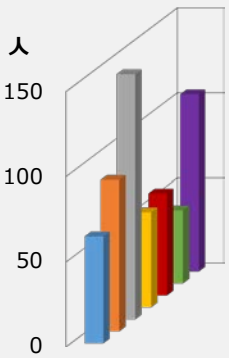
・今年の寄付金は昨年度を大幅に下回ってしまった。（昨年度は65,829円）
・ソーシャルメディアでのアピールが弱い一年だった。努力で改善できる点なので、積極的にアピールしていきたい。

Data 数字でみるユースの活動

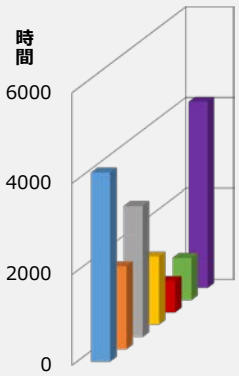
２０１６年度　事業別参加者数等



総参加人数
4,435人



総協力者数
559人



総活動時間
16110.5時間

２０１６年度　活動実績分析

参加者数

今年度授業内告知を幾度も行った「実践型インターンシップ事業」が最多の参加者人数となった。今年度は昨年度までと比べて大学の先生よりユースの活動告知の時間をいただけたことで、数多くの学生にユースの存在を知らせることが出来た。もっとも実際にそこから生まれた関係性は伸び悩んだため、告知方法の工夫は要検討課題である。より深い関係性が構築できたと言う意味では、次点の「起業・創業ネットワーク事業」の方が宇都宮大学の起業の実際と理論をはじめ、数字を超えた成果があったと考える。

協力者数

「地域担い手定着事業」が最も多くの方にご協力いただいた事業となった。特にはじまりのローカル コンパスととちぎ地域づくり担い手育成事業では多くの県内各地の地域づくり実践者の方にご協力いただき、プログラム参加者にフィールドワークを通して彼らの活動を紹介し、現場を見せることが出来た。次点の「起業・創業ネットワーク事業」も同様に「iDEA→NEXT」・「起業の実際と理論」・「ソーシャルグッドカフェ・社会をよくするシゴトのつくりかた・ソーシャルビジネス留学」の各種プログラムも連続形式で、多くの方に講師・メンター・ゲストとしてご協力いただくことができた。

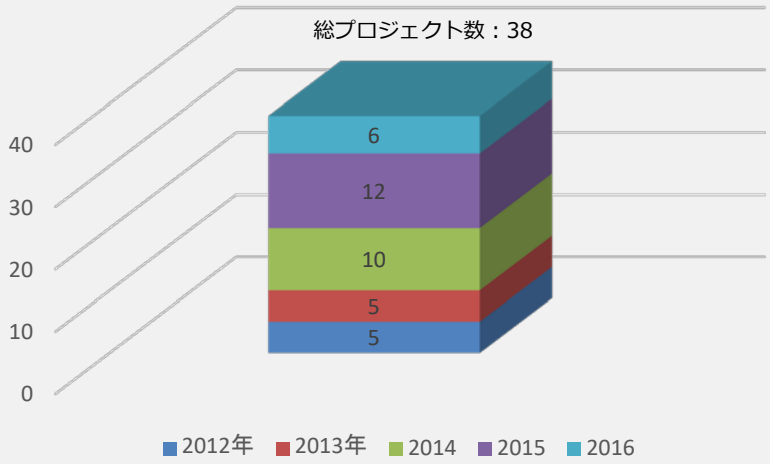
活動時間数

「実践型インターンシップ事業」が圧倒的一位に。今年度はオリジナル実践型インターンシップ案件のマッチングは3件にとどまったが、授業として数度にわたって連続で開催する宇都宮大学の課題発見解決型インターンシップで毎年定期的な数字を得られている。だが、7割以上を占めており、それが大部分を占めている現実は反省しなければならない結果であった。（参考：2014年度は活動時間の約半分、2015年度は3分の1）

講演・ワークショップファシリテーター等

2014年度は12件・活動時間508.5時間、2015年度は27件・2087.5時間、そして今年度は50件・4094.5時間とここ数年で急速な伸びを見せている。昨年度と同様に講演・ワークショップ講師などに加え、他団体のビジネスプランコンテストでの審査員やアイデアブラッシュアップのメンターなどにも関わることが多くなった。

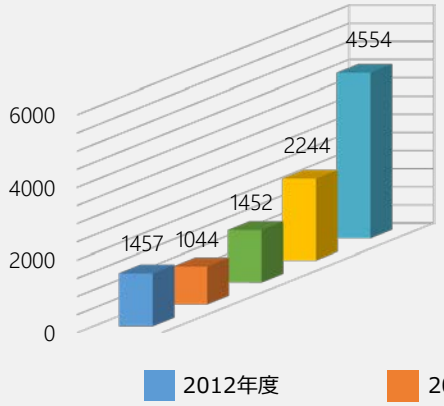
ユースの活動にて興った新プロジェクト



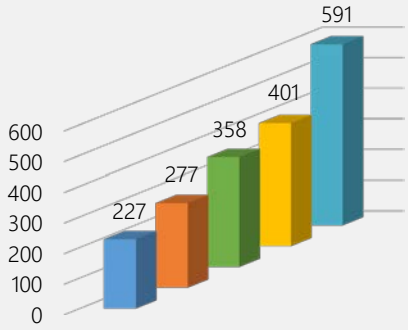
内訳	GENBA CHALLENGE	iDEA→NEXT
2012	4	1
2013	2	3
2014	7	3
2015	6	6
2016	2	4

プログラムデータ

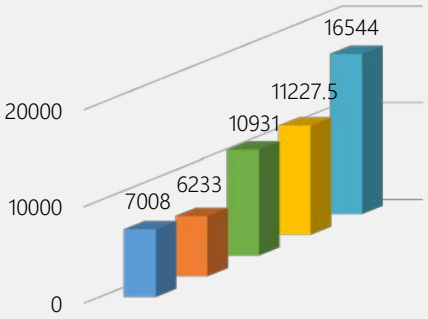
参加者数



協力者数

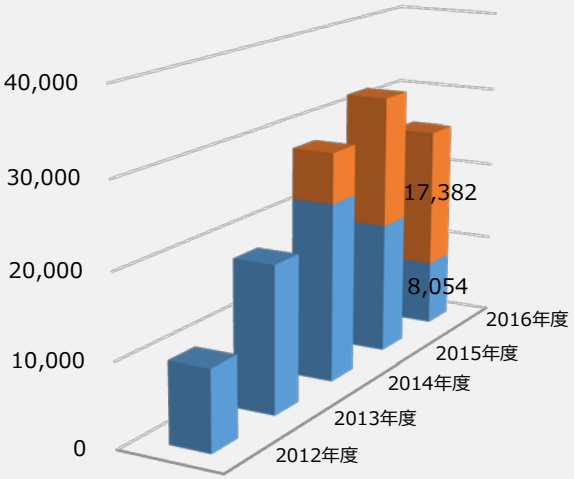


活動時間数

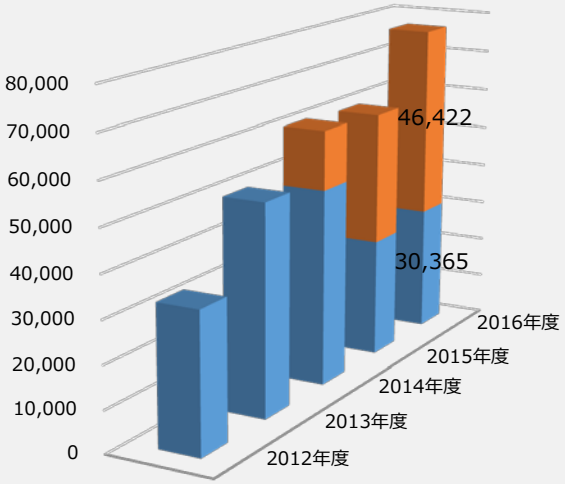


ウェブサイト

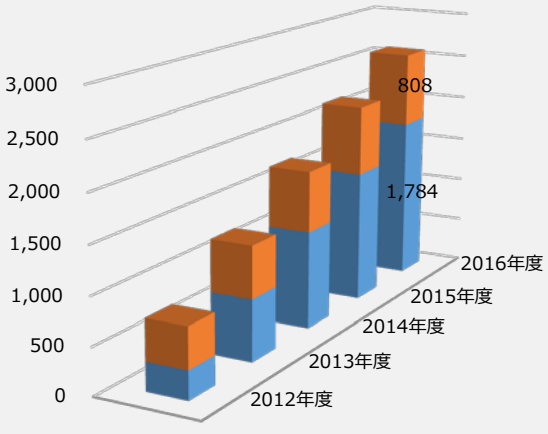
ユニークユーザー数の推移



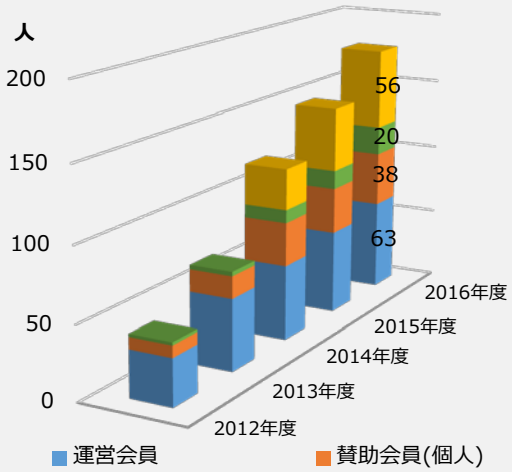
ページビュー数の推移

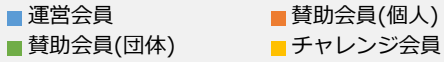


ソーシャルメディアフォロワー数



会員数





※チャレンジ会員は2014年4月スタート

Media メディア掲載

提出日	媒体名	プロジェクト名	記事タイトル
2016年6月5日	下野新聞 朝刊	地域コーディネーター養成	地域メディアの可能性を探る ミヤラジとの連携期待
6月29日	日本経済新聞 朝刊	起業の実際と理論	想像力を働かせてヒトゴトを「ジブンゴト」に
7月15日	RADIO BERRY 愉快なラジオ	宇都宮市民シティプロモーション	シティプロモーションの募集
7月21日	下野新聞 朝刊	宇都宮市民シティプロモーション	宇都宮ブランド推進協 魅力発信に市民の視点学生らのアイデア募る
8月5日	下野新聞 朝刊	宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ	企業の課題解決提案 宇大インターンシップ
9月15日	下野新聞 朝刊	宇都宮市民シティプロモーション	市民目線でまちをPR 宇都宮市愉快ライター募る
9月16日	RADIO BERRY 愉快なラジオ	宇都宮市民シティプロモーション	愉快ライターの募集、研修について
10月6日	日本経済新聞 朝刊		若者の力、地域に生かす 人物ファイル岩井俊宗
10月9日	下野新聞 朝刊	ソーシャルグッドカフェ	社会元気にする仕事探る ソーシャルグッドカフェに30人
10月26日	しもつけの心VOL1.043秋		挑戦する若者たちが未来を拓く
11月13日	日経MJ5993号		ほっとタウン 若者の力で地域元気
12月24日	下野新聞 朝刊		とちぎ協働推進大会 とちぎ学生未来創造会議
2017年1月29日	下野新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	栃木への興味深まる 県、移住促進へ活動報告
1月30日	読売新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	ＵＩＪターンを促進 県体験ツアー報告会
1月30日	下野新聞 朝刊	宇都宮市民シティプロモーション	魅力発信へ多彩なプロモ
1月	もんみや1月号		地元2つ、幸せ2倍。宮のイイトコロ
1月6日	RADIO BERRY 愉快なラジオ	起業の実際と理論	授業内発表会の観覧募集案内
2月3日	とちよみ宇都宮エリア	起業の実際と理論	宇大生らビジネスプラン発表 起業家養成講座
2月10日	RADIO BERRY 愉快なラジオ	宇都宮市民シティプロモーション	愉快ライターの成果 ライターの岡田さんとともに
2月15日	Vネット ボランティア情報 vol.222		ローカルイノベーターとコミュニティFM
2月17日	RADIO BERRY 愉快なラジオ	宇都宮市民シティプロモーション	愉快ライターの成果 ライターの若菜さんとともに
2月24日	とちよみ宇都宮エリア	iDEA→NEXT	2017ファイナルプレゼンテーションの告知
3月1日	アスポ	iDEA→NEXT	2017ファイナルプレゼンテーションの告知
3月	ミヤラジ+		ユース岩井の開局祝い寄稿文掲載
3月15日	パルシステムのんびる4月号		支えあうまちづくり 若者が動けば、地域も変わる。
3月26日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	会員の林氏のiDEA→NEXTについての寄稿文掲載
3月29日	ミヤラジ You Gotta MIYA!		ユース吉井が社会人代表として出演

メディア掲載数の推移

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
22 件	22 件	40 件	27件

Voice 会員の声

ユースの一員という強み

土崎 雄祐

国立大学法人宇都宮大学　特任助教

運営会員

ユースが繰り出す企画を拝見すると、いつもなぜだか元気が出てきます。チラシやFacebook記事の向こうに本気で地域を良くしたいと躍動する若者の姿が見えてくるんですよね。そして、発信だけでなく、彼らの気持ちを受け止めてもくれる。時にはとことん悩みに寄り添い、時には一歩踏み出せるよう背中を押してあげる。こうした絶妙なコーディネーションには、岩井代表をはじめスタッフの皆さんの矜持を感じずにはいられません。

経営資源の脆弱さから「NPOの経営は借り物競争」と言われることがありますが、課題が複雑に絡み合いすぎた昨今の社会情勢を見るにつけ、企業も行政も大学も、社会的な責任を果たそうとするあらゆる人と組織は、それぞれが持てるもの（強み）の「貸し借り」をしないと豊かな地域を形成していくことができない時代に突入したように思えます。その意味では、たくさんの強みと仲間を持つユースの末席にいられることも私自身の強みの一つかもしれません。

学生と関わるきっかけ

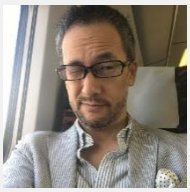
小松 優希

宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ事務局スタッフ

運営会員

ユースを知って約4年、最初の頃はイベントチラシをまちぴあホームページやブログに掲載をしていました。　2016年に行われた「地域を楽しく創る若者のトークセッション」に参加したとき、以前から学生がメインとなって活動している団体はいくつか知っていましたが、話を聞いて改めて高校生･大学生が行っている活動は面白い、もっと色んな方の話を聞きたいと思うようになりました。

仕事の中でも学生が関わっているイベントや活動者を取材することが多くなり、仕事外でもとちぎ学生未来創造会議の活動にも関わるようになり、センターとしても学生向けのイベントを行うことができました。　ユースに関わったことで色んなことに興味を持つことができ、ワクワクすることができます。今後も取材したりボランティアデーに参加しながら活動に関わって行きたいと思います。



社会と直接的な人間関係、持ててますか？

竹之木進 肇

株式会社ル・リオン　代表取締役

運営会員

日々の仕事に追われ、懸命にひたすら働いていると、誰でも自分に問いかける瞬間があります。「この繰り返しは自分が望んでいることなのか？」と。与えられた環境、課せられるミッション、過度な拘束時間。労働と引き換えに、全てがお金に換算され、最も大切な〝時間〟がどんどん奪われて行く…現代のホラーストーリーですね。笑

ユースと出会って4年、単なる勤め人から、起業・経営者と環境を変えました。本業の合間に、プロボノとしてユースの活動支援を続けています。「思考と視野を狭めない」という目的の為です。

自分を探しに、インドやアフリカに行くのも良いでしょう。でも、もっと身近なところに、新しい価値観、知らなかった世界観、身のある経験値が得られる場所があります。今の社会において、自分の具体的な人間関係を作ること・知っておくことは、とても重要です。ユースの活動は、地域に対する新たな価値を、多くの仲間と共感・共有することができる場です。そして、自分の未来に、確実に良いきっかけを与えてくれるでしょう。つまり、知らないと損をしちゃいますよ、ということです。笑

多様性を提供してくれる場所

門間 大輝

株式会社フレンド

2015年度ユースインターン生

チャレンジ会員

ユースに関わって数年経つのが不思議な気分ですが、福島の防波林に苗木を植えるプログラムをきっかけに関わったのが、今思うとユースとの出会いだったと思います。

そこでは同じボランティアに参加するのに、様々な価値観を持った人々との出会いが待っていました。自分の持っている価値観との違いに驚き、またそうか、こういう考え方があったのか。その考え方は自分の今後のやりたいことの参考にしようとか、どんどん自分に新しい価値観が生まれていくのを感じながら、ユースとの最初出会いである大学時代経て、今、社会人の自分があるような気がします。

社会へ出ると学生時代なら言い合えたことが言えない相手や物事に遭遇することが多くなりますが、そういった学生時代の経験があるおかげで、自分と違う人の価値観も理解しようと思うことが出来てきたような気がします。

そういった意味でも私にとってとちぎユースサポーターズネットワークは多様性を提供してくれる場所だと思います。

まちづくりのきっかけとなった場

木津 英美里

宇都宮大学地域デザイン科学部

コミュニティデザイン学科2年

チャレンジ会員

わたしがユースと出会ったのは大学の授業で宇都宮市西地区の空き家持ち家意向調査の実施メンバーを募集していたときでした。大学でまちづくりに関する授業を受けていたので、ユースの活動にはとても興味がわきました。様々な活動の中で1番お世話になったのがiDEA→NEXTです。今まで漠然と宇都宮市をフィールドにしてやりたいと思っていたことがあったのですが、それを具体的に引き出し形にしていくにはどうすればいいか分かりませんでした。iDEA→NEXTを通してユースのスタッフから的確なアドバイスや情報をたくさんいただき、やりたいことを全面的にサポートしていただきました。今もまちづくり関連のプロジェクトメンバーに加えていただけたり、わたしのまちづくりのきっかけになっているのがユースです。

体験は宝！

近藤 千園

C.K.コンサルティング＆コーチング 代表

家業を継ぐ娘たちの会

賛助会員

若者による社会をよくするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」のメンタリングをさせて頂きました。目を輝かせて自身のプランを語る「場」が若い頃からあるって素晴らしいなと、羨ましくも思いました。若い頃の体験は宝。「何に一生懸命になったか」「なぜ夢中だったか」「誰と出会ったか」によって、その先の人生を創り上げていきます。

「iDEA→NEXT」のほか、様々な体験をする機会が、栃木にある意義は絶大です。

この地にいる若者のために、今後この地に住みたいと思う若者のためにも、ぜひこれからも頑張って下さい。応援していますし、ご一緒できたらと思います。

応援団はたくさんいますよ

栃原 晋太郎

特定非営利活動法人栃木DARC

運営会員　賛助会員・団体

岩井さんと知り合って何年になるか数えていたら自分がおじさんになるのも頷けました。ユースが出来て10年目に突入なんですね、本当におめでとうございます。

団体としての自己満足で終わらないような新事業の作り込みに感動したり、若者の未来を本気で考え悩む姿に共感させてもらいました。「面白そうだね～」って言いたくなるような新たな取り組みに毎回関わらせてもらっていますね。

クラウドファンディングへの挑戦は団体としての財産となりました。

感謝とともに、これからもずっと一緒に歩いていきたいと願っています。

学生の起業家の輩出を応援したい！

武田 文夫

株式会社ジード　代表取締役

賛助会員・団体

私は、大学生の頃、起業し挫折した経験があります。失敗したことは非常に悔しいものですが、その期間、無我夢中でいろんな事を考え、実践したことで、自分の成長につながったことは間違いありません。

学生のうちから高い志をもって自ら考え行動することで得る経験は、おそらくどんなことよりも自分を成長させます。私は、社会人経験を経て再度の起業によって現在、学生の頃に目標としていた起業家となりました。このとちぎユースサポーターズネットワークでは、そのような経験から学生の起業家支援で協力をさせていただいています。高い志のある学生の成功を期待しています。

自分をワンランク成長させてくれる場所

太田 祐司

宇都宮大学 4年

チャレンジ会員

私がユースと出会ったのは去年の春、とちぎ手仕事プロジェクトFukuFukuの方からです。当時は震災復興をメインに行っている団体なのかと思っていたら事業の一環でした。 特に一番お世話になったのはとちぎボランティアネットワークの実践型インターンシップです。ユーススタッフの方々（特に岩井代表理事）が不安があるたびに相談に乗っていただいて、なんとかプロジェクトを成功させられました。また、そこで繋がった関係は今でも続いていて、この場を設けてくださったユースには本当に感謝しかないです。宇都宮にいるのは半年間なので、悔いのないように関わっていきたいです。

Finance 財務報告

活　動　計　算　書

2016年4月1日から2017年3月31日まで　（単位：円）

	ゲンチャレ	ｱｲﾃﾞｱﾈｸｽﾄ	ユース チャレンジ	復興販売	産業力強化	県地域づくり	県UIJターン	宇・起業家 養成	ﾛｰｶﾙﾍﾞﾝﾁｬ	若者人材育成	ｿｰｼｬﾙ支援	その他事業	ユース会計	合　計
【経常収益】														
正会員受取会費													165,000	165,000
賛助会員受取会費													235,000	235,000
受取入会金														0
受取寄付金		390,567		611						10,000	5,000	50,321	151,970	608,469
受取助成金			3,000,000											3,000,000
受取補助金					1,010,455									1,010,455
協賛金収益	180,000	330,000												510,000
自主事業収益	1,138,500			96,709						300,000	4,085,313	58,050		5,678,572
受託事業収益						4,157,000	5,800,000	2,268,000	1,500,000					13,725,000
参加費収益		74,600		11,000	53,000				6,500	91,600		127,500	5,500	369,700
受取利息													315	315
雑収益							10,000					770	40,000	50,770
経常収益　計	1,318,500	795,167	3,000,000	108,320	1,063,455	4,157,000	5,810,000	2,268,000	1,506,500	401,600	4,090,313	236,641	597,785	25,353,281
【経常費用】														
事業費														
人件費	1,493,871	1,762,057	2,097,272	16,595	616,257	2,575,233	2,363,315	530,826	737,932	395,877	2,067,394	459,909	1,056,720	16,173,258
その他経費	323,379	638,672	1,227,742	213,524	562,804	1,581,767	3,446,685	506,957	397,632	271,049	372,702	267,538	405,244	10,215,695
事業費　計	1,817,250	2,400,729	3,325,014	230,119	1,179,061	4,157,000	5,810,000	1,037,783	1,135,564	666,926	2,440,096	727,447	1,461,964	26,388,953
管理費														
人件費													622,863	622,863
その他経費													1,268,894	1,268,894
管理費　計													1,891,757	1,891,757
経常費用　計	1,817,250	2,400,729	3,325,014	230,119	1,179,061	4,157,000	5,810,000	1,037,783	1,135,564	666,926	2,440,096	727,447	3,353,721	28,280,710
	ゲンチャレ	ｱｲﾃﾞｱﾈｸｽﾄ	ユース チャレンジ	復興販売	産業力強化	県地域づくり	県UIJターン	宇・起業家 養成	ﾛｰｶﾙﾍﾞﾝﾁｬ	若者人材育成	ｿｰｼｬﾙ支援	その他事業	ユース会計	合　計
当期経常増減額	-498,750	-1,605,562	-325,014	-121,799	-115,606	0	0	1,230,217	370,936	-265,326	1,650,217	-490,806	-2,755,936	-2,927,429
過年度損益修正損														0
当期正味財産増減額	-498,750	-1,605,562	-325,014	-121,799	-115,606	0	0	1,213,217	370,936	-265,326	1,650,217	-490,806	-2,755,936	-2,927,429
前期繰越正味財産額														3,571,683
次期繰越正味財産額														644,254

(注)特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動報告書と呼んでいます。

貸　借　対　照　表

2017年3月31日現在　（単位：円）

資産の部				負債の部			
科　目	当年度	前年度	対比	科　目	当年度	前年度	対比
【流動資産】				【流動負債】			
（現金・預金）				未払金	2,005,795	1,638,711	367,084
現金	159,517	509,604	-350,087	短期借入金	0	0	0
普通預金	1,847,540	4,982,477	-3,134,937	預り金	308,415	601,294	-292,879
郵便振替口座	19,626	381,500	-361,874	流動負債　計	2,314,210	2,240,005	74,205
未収金	7,129,641	3,138,107	3,991,534	【固定負債】			
立替金	12,140		12,140	長期借入金	6,650,000	3,640,000	3,010,000
流動資産合計	9,168,464	9,011,688	156,776	固定負債　計	6,650,000	3,640,000	3,010,000
				負債の部　合計	8,964,210	5,880,005	3,084,205
				正味財産の部			
【固定資産】				【正味財産】			
（投資その他の資産）				正味　財産	644,254	3,571,683	-2,927,429
敷金	440,000	440,000	0	（うち当期正味財産増加額）	-2,927,429	2,962,810	-5,890,239
投資その他の資産計	440,000	440,000	0	正味財産　計	644,254	3,571,683	-2,927,429
固定資産合計	440,000	440,000	0	正味財産の分合計	644,254	3,571,683	-2,927,429
資産の部合計	9,608,464	9,451,688	156,776	負債・正味財産の部合計	9,608,464	9,451,688	156,776

財　務　に　関　す　る　分　析

今年度は事業の拡がりに合わせ、これまでの5名体制（常勤：3名＋非常勤：2名）に、20代の若手2名が常勤スタッフとして加わった。

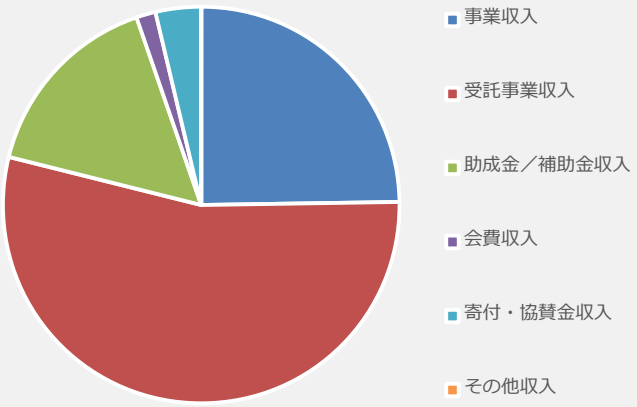
収入面では、概ね計画通りの事業を受注したが、当初から計画していた自主事業で大幅な予算未達となり、年度途中でいくつかの新事業を受注したものの、赤字分全てを補填することができず、予算対比で見ると約150万減となった。寄付は、昨年度から12%減となり、年々下降している。若者を地域活性化の活力とする近年の社会的追い風により、県内外で認知が拡がっているのはプラス材料となっている。

今後は、自主事業の見直しおよびテコ入れに加えて、ファンドレイジングについてしっかりと戦略を立て、より積極的なアプローチが求められる。

支出面では、予算対比約130万円の支出増加となった。
人員体制の強化により人件費が重んだことに加え、支出をマネジメントできていない事業があることなどが主な原因となっている。
各プロジェクトチームのリーダーを中心に、内部で行う取り組みと外部ソースに任せることなど、時間と費用をマネジメントすることと、予算の計上と執行を責任もって行うことと、毎月の経営会議で収支および進捗の確認を行っていく。

これまでの懸念だった若い人材の合流ができ、チームの土台作りの一年となった。今年度の反省を踏まえ、事業をマネジメントする力をより高め、組織としての安定感を生み出していきたい。次年度は、これまで計画しながら成果を出せていなかった分野（特にファンドレイズ部門）で、より注力し、県内外の共感者を増やし、より若者の力を可視化し、地域の課題解決／活性化を持続可能になる取り組み・環境を整備していきたい。

２０１６年度財政比率



事業収入	6,279,042
受託事業収入	13,725,000
助成金／補助金収入	4,010,455
会費収入	400,000
寄付・協賛金収入	938,469
その他収入	315

About us 団体概要

所在地	栃木県宇都宮市宮園町８－２　松島ビル２F
Tel/Fax	０２８－６１２－３３４１
E-mail	ysn_office@tochigi-ysn.net
設立	任意団体　2008年7月１日　法人化　2010年4月1日
スタッフ体制	常勤５名、非常勤２名
会員数	運営会員(個人)６３名、賛助会員(個人)３８名、賛助会員(団体/企業)２０社 チャレンジ会員５６名（2016/3/31現在）

理事/役員

代表理事	岩井　俊宗	(認定ＮＰＯ法人宇都宮まちづくり市民工房　理事)
副代表理事	塚本　竜也	(ＮＰＯ法人トチギ環境未来基地　理事長)
理　事	大塚　雅斗	(株式会社キッズコーポレーション　代表取締役)
理　事	清嶋　磨利夫	(株式会社キップルネットワーク　代表取締役)
理　事	小久保　行雄	(有限会社ドンカメ　代表取締役)
理　事	金井　光一	(ＮＰＯ法人チャレンジド・コミュニティ　代表理事)
理　事	中野　謙作	(一般社団法人栃木県若年者支援機構　理事長)
理　事	古河　大輔	(ＮＰＯ法人とちぎユースサポーターズネットワーク　事務局長)
監　事	安藤　正知	(宇都宮市まちづくりセンター「まちぴあ」　センター長)

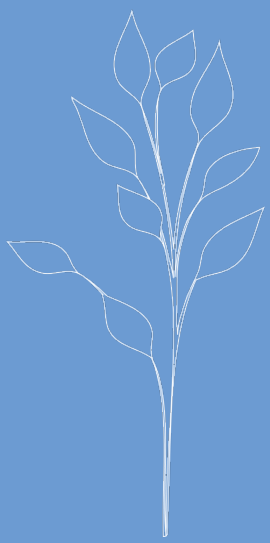
サービス（事業）

（１）特定非営利活動に係る事業

1.社会事業を行う若者の人材育成事業
2.ソーシャルプロジェクト支援事業
3.ネットワーク・コミュニティ形成事業
4.行政、企業、NPO、組織形態を越える地域・若者サポートネットワークの構築事業
5.挑戦する若者を支える奨学金事業
6.社会事業に関する相談/アドバイス事業
7.調査研究事業
8.情報発信・出版事業

（２）その他の事業

1.物品販売事業
2.出版事業
3.施設管理業務事業



Tochigi Youth Supporters Network

ANNUAL REPORT 2016

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
2016年度年次報告書

www.tochigi-ysn.net